



好學愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

6月の行事予定

6月	
1金	中間考査時間割発表 中掃除
2㊥	悠々講座(生涯学習県民大学)開講式
3㊦	
4月	学年朝会
5火	
6水	
7木	
8金	中間考査(1日目) 七校協議会(長崎西高)
9㊥	七校協議会(長崎西高)
10㊦	第1回英検一次試験
11月	中間考査(2日目) 中高連絡会 学校安全の日
12火	中間考査(3日目) 3年学力検討会 部活動生集会 職員健康診断
13水	月曜の授業 職員健康診断
14木	クラスマッチ 午後)
15金	クラスマッチ 終日)
16㊥	悠々講座① 3年小論文模試
17㊦	
18月	全校朝会 集団読書(1年)
19火	
20水	
21木	
22金	
23㊥	
24㊦	県職員採用試験会場
25月	学年朝会 実力考査時間割発表
26火	
27水	保健講話
28木	修学旅行前健康相談
29金	学年会 5分短縮
30㊥	

おじさんと金環日食 教頭 秋元 達也

「無限に広がる大宇宙・・・」
この言葉は、僕たちおじさんにとって青春の証のようなフレーズである。異星人の攻撃により絶滅の危機に在る地球を救うために、遙か十四万八千光年の彼方にある惑星へと旅立った船の物語。様々な苦難に直面しながらも、愛と勇気の手でその全てに打ち克ち、地球に平和をもたらすというそのアニメは、当時若かった僕たちを熱狂させた。その冒頭に、この言葉に始まるナレーションが流れていた。

以来、神秘的な宇宙の映像に接する時の僕の心の中には、切ないスキヤットのBGMとこのナレーションが自動再生され、宇宙を自然科学という定義を超越した世界として認識するようになった。スターウォーズではだめなのだ。猿の惑星なんてとんでもないのである。

今回の金環日食は、まさにその真ん中を射抜く出来事であった。恥ずかしいから内緒にしていたけれど、こっそりと日食グラスも千五百円出して買ったのだ。その日が近づくにつれて、マスコミが一齐に騒ぎ始める。「いいぞいいぞ。チューブでかかろう。BGMを聞きながら僕は悦に入る。宇宙のロマンを前にした時、人は誰でも己の小ささが意識され、きつとつまらない静いなどどうでもよくなるのだ。谷川俊太郎もきつとそんな気持ちを詩にしたために違いないのだ。

しかし、である。現実には思わぬ方向に動き始めた。S.M.A.Pの登場である。日食当日に太陽と共に唄うというではないか。僕はそれまで毎朝見ていた「めざましテレビ」に見切りをつけた。気づけばどの民放も同様の傾向にある。最後の頼みの綱は公共放送局だ。しかしその局さえも、日食そのものではなく、日食便乗の人々の営みを日々リポ

ートしている。ロマンはコマースリズムの材料にすぎなくなっている。この世にはすでにロマンはないのか・・・。

五月九日、僕は鶴丸高校体育館にいた。そこでは僕を引き込む生徒総会が展開されていた。「鶴丸で学ぶとはどういうことか」。論は「学ぶ」とを単なる学習にとどめるのではなく、鶴丸で生きていること、鶴丸生として生きることに求め、その理想と自らの現実を相対化し昇華を目指す高尚な内容であった。もしこの内容を公開できれば、きつと世の大人たちは「若者」に対する認識を改め、日本の将来に期待を抱いてくれる、そんな確信を持たせてくれた。次々と発言を求め手が挙がる中、懸命に持論を述べる多くの一年生の姿も頼もしかった。若者を見くびってはいけないのだ。

「大辞泉」によれば、ロマンとは「感情的、理想的に物事をとらえること。夢や冒険などへの強いあこがれをもつこと」と定義されている。とすれば、生徒たちによる自らの理想にかけける情熱の強い迸りは、まさに「ロマン」そのものである。そして何よりも嬉しいことは、鶴丸生たちがその現実化を図ろうという意志を有していることである。生きるエネルギー、学ぶエネルギーとして、ロマンを有機的に生活に位置付けられている彼らに、素直に敬意を表したい。

五月二十一日、残念ながら金環日食をこの目で観測することはできなかった。でも、それでもいいのだ。理想というものはなかなか手が届かない故、次のエネルギーへと転化するのだから。S.M.A.Pは唄ったらしい。でも、それでもいいのだ。僕の日常の周りに、これだけ多くの、未来をポジティブに志向する「若者」がいることが確認できたのだから。日食グラスはとりあえず押し入れに入れておこう。ひそかに六〇年後を期して・・・。

P.T.A総会

5月14日(月)、P.T.A総会が開かれ、前年度会務報告及び決算報告、今年度事業計画案及び予算案、新役員選出などについて協議が行われ、すべて承認された。学校の現況報告では、保護者による学校評価の分析と学校としての対応や教育課程、進路状況等について説明があった。総会後、今回退任されたお二方、三年間P.T.A会長を務められた湯浦一徳さん、P.T.A監事を三年間務められた岩倉ひろみさんに感謝状と記念品が贈呈された。新たに選出された役員は次の通り

会長 松野下 剛 市 様
 監事 徳利 浩 司 様
 副会長 岩元 優子 様
 副会長 丸山 健太郎 様
 監事 城光寺 剛 様

前年度からの役員は次の通り

集団読書

5月21日(月)に三年生の集団読書会が行われた。今回の対象作品は、森博嗣の『自分探しと楽しさについて』。

各クラスの委員長・副委員長が中心となつて実施計画を立て、当日に備えた甲斐があり、それぞれのクラスで有意義な読書会となった。以下に、感想文の優秀作品を掲載する。

「自分」とは一体何なのか。「自分」は周りからどのように思われているのだろうか。私たちが「自分」に関することについて常に悩み、考えながら生きているような気がする。なぜなら、私たちが「自分」という存在と一生付き合っていないといけないからである。私自身もたまに「自分」について考えることがある。これまでの自分を振り返ったり、客観的に自分自身を見つめ直してみたりして何とか答えを得ようとする。が、いまだにその成果はあらわれない。そんな時に出会ったこの本は、私に新たな視点を与えてくれた。

読み進めていく中で、私が非常に驚いたのは「自分」はどこにもあるというフレーズだった。「自分」というのはどこにも存在するものではない、本当は簡単に見つけられる。大事なのは考えることではなく、まずは行動することである。これらの言葉のおかげで、私のもやもやとした心は何だか明るく晴れ渡るような感じになった。

私たちは「自分」のことを考える上で知らぬうち視野が狭くなっていたのではないだろうか。何もせずに考えてばかりいるのにもかかわらず、今、自分が置かれている状況を嘆き、楽しさばかりを求め続ける。これでは、毎日の生活の中にあるはずのほんの少しの幸せにさえ気づくことはできないと思う。「自分」のために行動を起こし、楽しみを見出せるのは私自身なのである。

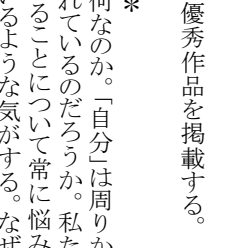
私は、この本と出会ったことで、これまでとは全く異なった視点を持つことができた。新たな「自分」と向き合った今、私にはどのような楽しさがあるのだろうか。そう考えると、自然と足取りも軽くなる。まずは行き帰りの道端に目を向けてみよう。きつとそこに、新たな「自分」を見つけられる何かがあるはずだから。

(33R 岡 英美里さん)

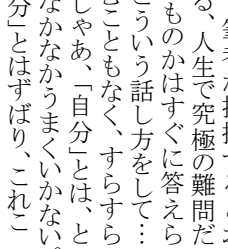
交通安全教室

5月25日(金)、鹿児島西警察署交通課の山下浩二さんを講師にお招きして交通安全教室が実施された。安全教室では、管内で起きた事故についての説明の後、「ルールを守れば事故はないのか」というテーマで、講話があった。そこで、交通安全ルールを遵守することは大切だが、それだけでなく自分の身は守れないということ、相手が期待通りのことをしてくれないと思わず、危険を予測し状況判断をすることが大事であるという話をくださった。

自転車は気軽に乗ることができると危険な乗り物でもあるという話を聞き、車の運転手としての責任を自覚して周囲の人や自分自身を傷つけないよう十分に注意しなければならぬ。今回学んだことを、今後の人生に生かしてもらいたい。



集団読書会の様子



交通安全教室の様子